
















週間市場レポート (2022年7月25日~7月29日)

1) 先週の市場動向

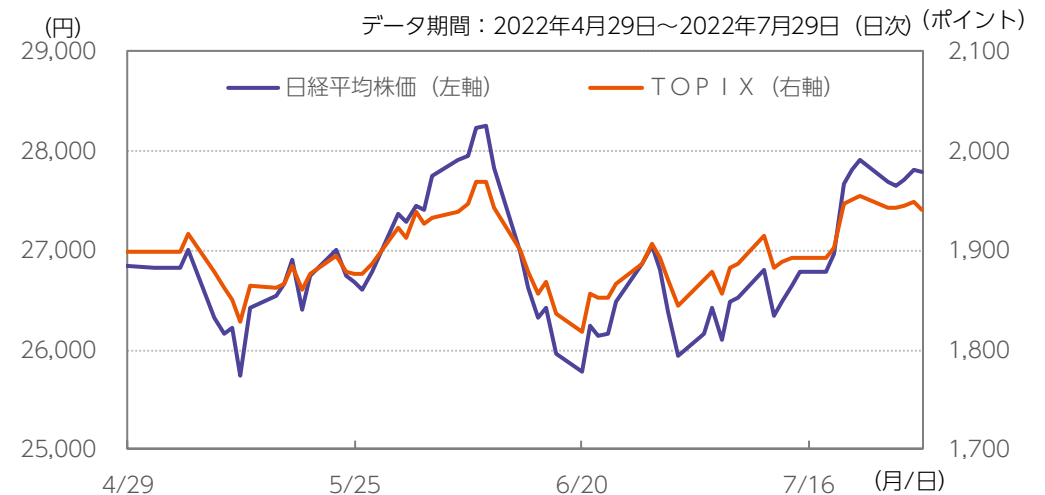
指数名	国	前週末 2022/7/22	先週末 2022/7/29	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,914.66	27,801.64	▲ 0.40 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,955.97	1,940.31	▲ 0.80 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		31,899.29	32,845.13	2.97 ↑
S&P500種指数		3,961.63	4,130.29	4.26 ↑
ナスダック総合指数		11,834.11	12,390.69	4.70 ↑
ユーロ・ストックス50指数		3,596.49	3,708.10	3.10 ↑
S&P/ASX300指数		6,777.56	6,933.18	2.30 ↑
上海総合指数		3,269.97	3,253.24	▲ 0.51 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		827.14	822.60	▲ 0.55 ↓
東証REIT指数		1,998.25	2,021.99	1.19 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		807.17	845.91	4.80 ↑
ASX300 REIT 指数		1,428.90	1,484.20	3.87 ↑
グローバルREIT (除く日本)*		189.29	197.39	4.28 ↑
日本10年国債 (%)		0.215	0.185	▲ 0.030 ↓
米国10年国債 (%)		2.750	2.649	▲ 0.102 ↓
ドイツ10年国債 (%)		1.031	0.817	▲ 0.214 ↓
英国10年国債 (%)		1.939	1.864	▲ 0.075 ↓
ドル/円		136.12	133.27	▲ 2.09 ↓
ユーロ/円		139.00	136.16	▲ 2.04 ↓
英ポンド/円		163.44	162.20	▲ 0.76 ↓
豪ドル/円		94.26	93.12	▲ 1.21 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,842.41	2,967.14	4.39 ↑
WTI原油先物 (ドル)		94.70	98.62	4.14 ↑
CRB指数		281.16	292.06	3.88 ↑

出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

2) 日本の株式・債券市場

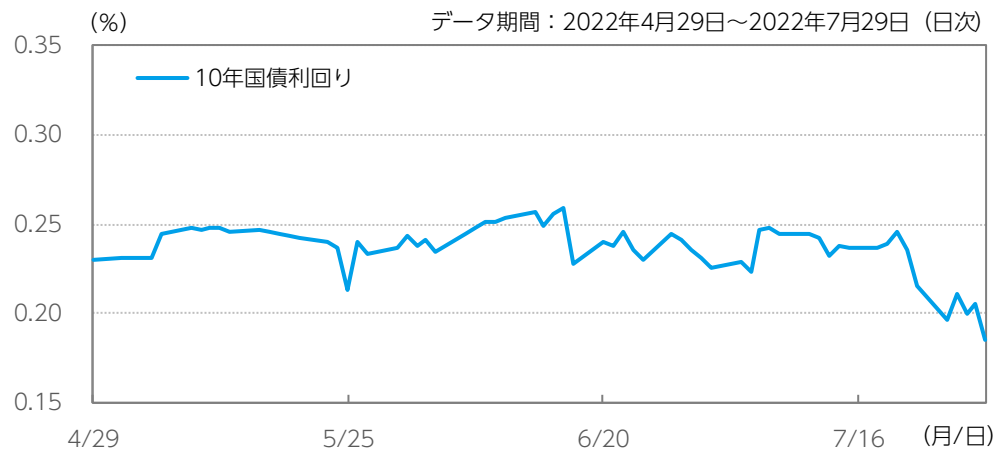
◀ 株式 ▶

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で小幅に下落しました。前週末に公表された景況感を示す経済指標が悪化し、米国株式市場が大幅下落した流れを受け、週初は8営業日ぶりに下落しました。その後は、米連邦公開市場委員会 (FOMC) を控え様子見ムードが高まる中、発表が本格化する国内の企業決算への警戒もあり、方向感を欠く展開となりました。FOMC後のパウエル米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長の発言を受け、FRBによる利上げペースが鈍化するとの見方から米長期金利が低下すると、週末にかけてグロース (成長) 株を中心に買われたものの、週末は、円高の進行により輸出関連株の売りが進み、小幅に下落しました。



≪ 債券 ≫

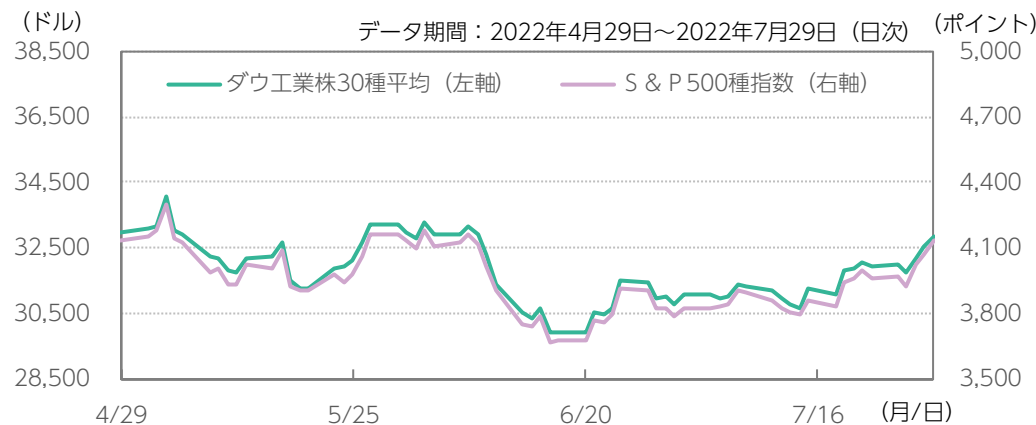
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下しました。国際通貨基金（IMF）が2022年の世界経済の実質成長率見通しを下方修正するなど、世界景気の減速懸念が強まり欧米の長期金利が低下した流れを受け、国内金利も低下基調となりました。一方、FOMCの結果を控え、持ち高調整や利益確定の売りもあり、国内金利は上昇する場面もありました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

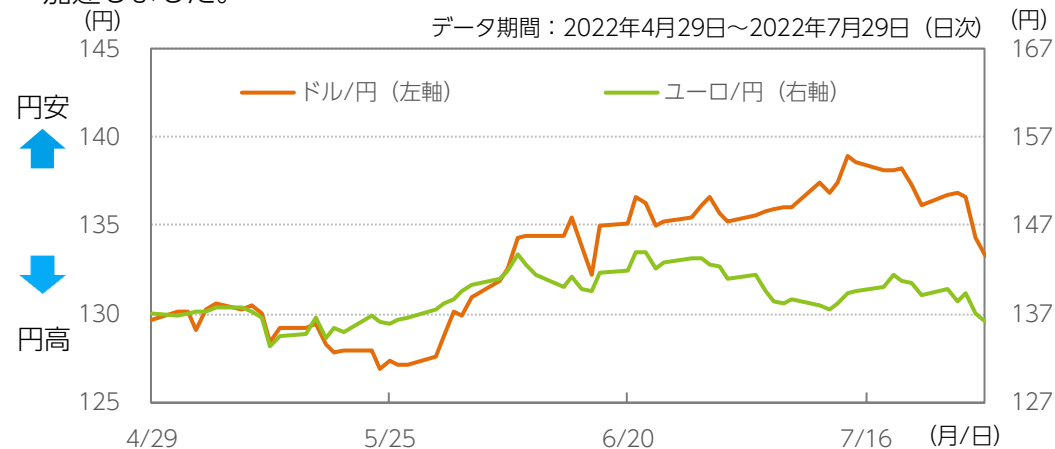
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇しました。FOMCを控え、週初は、積極的な売買は限られました。米大手小売りが業績見通しを下方修正し、小売りセクターを中心に売られる場面もあったものの、週末にかけては、FOMC後のパウエルFRB議長の発言や、4～6月期の米国の国内総生産（GDP）が2四半期連続でマイナス成長となると、FRBが利上げペースを緩めるとの期待から幅広い銘柄が買われ、上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米ドルがユーロに対して買われ、対円での米ドル買いに波及する場面も見られたものの、FOMC後のパウエルFRB議長の会見や、4～6月期の米GDPが2四半期連続のマイナス成長となったことを受け、今後はFRBによる利上げペースが緩むとの見方から、一時1米ドル=132円台まで円買い米ドル売りが加速しました。



5) 今週の見通しについて

先週の米国株式市場は、今後、米国が利上げペースを緩めるとの期待などから、週末にかけて上昇基調を強めました。

26～27日に開催されたFOMCでは、0.75%の利上げが決定されました。声明では、引き続きインフレ抑制のため追加の利上げについて積極姿勢が示されたものの、パウエルFRB議長は今後の利上げについては経済データ次第とし、利上げペースを緩める可能性を示唆しました。市場では、9月以降の会合での利上げ幅、および利上げ休止のタイミングを見極めるため、インフレを中心とした経済データに注目が集まりそうです。

日米欧の金融政策決定会合を無難に通過したことから、株式市場では買い安心感が広がっているものと思われます。8月上旬は日米企業の決算発表が佳境となるため、今週の株式市場も、良好な決算や業績見通しを上方修正した銘柄が相場をけん引し、日米両市場ともに上値を試す展開となりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>